

## 第2回小田川柳井原地区川づくり検討協議会 議事要旨

開催日時：平成29年8月1日（火） 14:00～16:15

場 所：岡山河川事務所 2階会議室

出席委員：7名中6名出席

議事要旨：

議事説明（非公開部分の確認）

異議なし。（承認）

議事①小田川多自然川づくり検討の概要

意見なし。

議事②小田川の流水環境整備について

### 1) みお筋、瀬淵の設定

（委員）：整備直後に渇水年となる可能性もある。どの程度の流量で変動が生じるかを踏まえて、初期河道の形状を考えると良い。

（委員長）：掘れるところは初期から深みを作ると良い。

（委員）：水がどのように引いていくのかも重要である。魚類を深みに誘導できるような形状にしていきたい。

（委員）：整備により堤内地の地下水面が変化する場合、現在想定している深みの水位も変化するのではないか。現状で小田川の上流区間で確認しておくとうい。

（委員長）：岩盤河床の上流側に深みを作ると、水位を維持可能ではないか。

### 2) 河道の維持管理

（委員）：-2.0kは湾曲部であるため、外岸部は洗掘されないのか。

（事務局）：平水時でも-2.0kまで高梁川の背水の影響を受けるため、緩やかな流れと想定している。

（委員長）：堆積箇所では樹木が生育、繁茂する恐れがあることから、維持管理が必要となる。

（事務局）：参考資料に樹木の生育を想定した結果を示している。樹木の繁茂が治水上問題がある場合には、維持管理を実施していく。

議事③多自然川づくりの実施内容（案）

### 1) 多様な動植物の生息環境の保全

（委員）：候補箇所①に整備する盛土が洪水時に耐えうるものなのか。形状を確認するために、横断図を示してほしい。

また、洪水時の平面流況で、堆積の仕方（河岸凸型、または一様型）を確認すると良い。

（委員）：候補箇所②では、洪水規模によってみお筋が変化するのではないか。クリークが崩壊とあるが、どのように崩壊するのか示してほしい。

（委員）：クリークの堆積を防止するためには、候補箇所②の取水口から浮遊砂が入らないようにすべき。佐賀県の嘉瀬川の象の鼻は土砂を沈降させる仕組みであり、参考となるのではないか。

（委員長）：百間川でも一の荒手と二の荒手の間に土砂を沈降させる機能がある。

（委員）：クリークの上流端の設計には、水生動物が侵入できる観点も含めてほしい。

（委員）：三面保護構造が長期的に（20年後以降も）維持されるか確認が必要である。

（事務局）：構造については、コストや機能面を勘案した上で設定したい。

（委員長）：一律の断面で整備するのではなく、多様な環境を創出していただきたい。

（事務局）：試験施工を実施しながら、色々な試みをしていきたい。

（委員）：クリークの位置については河床変動の状況を詳しく示したうえで、どの位置が適切か判断すると良い。

## 2) アサザの生息環境の保全

（委員長）：費用対効果の関係から20年後を目標とするのは短いのではないか。もう少し長い期間を対象にして、維持管理を考えるべきではないか。

（委員）：中堤の位置や長さの根拠は明確にして整理しておく必要がある。

（委員）：本川の堆積が進行した場合、本川からアサザ保全池の方へ流れが形成されるのではないか。横断的な水面勾配を確認しておくが良い。

（委員）：スリットにごみが詰まらないようにしてほしい。

（委員）：スリットの敷高は平水面や将来の堆積を考慮して設定するのが望ましい。

（委員長）：「アサザ保全池の流況計算」は、高梁川の水位によっても変わるため、極端な場合（ピーク合流）についても検討したほうがわかりやすいと考えられる。

（委員）：水質については、濃度だけでなく量も重要である。

(委員)：集落からの排水に農業排水が含まれる場合には、時期（代かき期、かんがい期、非かんがい期）によって水質が異なる。

### 3) 一年生草本の生息適地の整備

(委員)：横断形状を示して変動後の状況を確認し、持続可能かを判断すると良い。

(委員)：石などで洪水時に堆積等を計画的にできると良い。

(委員長)：堆積による樹林化もあわせて、維持管理費が少なく済むよう、水はね水制により流水を誘導することなども検討すると良い。

(委員)：横断図に平水位や豊水位などを示す。

### 4) 河川利用

(委員)：重機が入れる坂路を何か所か作っておくとよい。

(委員)：保全池の堤防部は公園として利用できるように、芝生の手入れも念頭においてほしい。地元の意見はこれから聴取し、まとめていきたい。

### 5) 貴重動植物への対応

(委員長)：図面に砂州の位置等がわかるように示す。

(委員)：クリークの周辺の環境は、サギ等を回避するようなものが必要である。

(委員長)：小田川上流にあるクリークの環境が良いため、それを参考にして設計すると良い。

(委員)：クリークが将来堆積した場合、魚類はどこに生息するのかも検討が必要である。ワンドが適地となるとあるが、どういう物理環境が形成されるか、適地になるかが重要になる。

(委員長)：将来をイメージしやすい図があると良い。

(委員)：クリーク部の河床変動量がわからないので、どこまで堤内地に寄せればよいかを判断できないので、横断図などのデータを示す必要がある。

(委員)：どのような時でも水面が維持できるように縦断形を良く検討する必要がある。

(委員)：タナゴ類の維持のためには二枚貝類が不可欠である。渇水時は、二枚貝類への影響が大きく、底質環境なども重要であるため、その観点でも検討いただきたい。

以上